

GPS / JIPS 安全性要約書

【重炭酸ナトリウム】

要 旨

重炭酸ナトリウムは常温で白い無臭の粉です。胃腸薬、製剤原料、入浴剤、洗剤、ペット用脱臭剤、消火剤など幅広く使用されています。

重炭酸ナトリウムは飲み込んで安全です。但し、大量に飲み込んだ場合、腹痛、吐き気、下痢などの体調不良を起こすことがあります。吸い込んで皮膚に付いても有害ではありません。通常は、皮膚や眼への刺激も少なく、アレルギーを起こすこともありませんが、人により刺激を感じる場合があります。念のため、皮膚に付いた場合や眼に入った場合には水で洗い流して下さい。また、遺伝毒性、発がん性、生殖毒性など特に問題となる有害性はないことが、動物実験等によって分かっており、環境に関しても特に問題となる影響はありません。

1 . 名称

化学名：重炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム

慣用名：重曹、重炭酸ソーダ、ベーキングソーダ

製品名：重炭酸ナトリウム（重曹）

CAS 番号：1 4 4 - 5 5 - 8

化学式：NaHCO₃

2 . 用途など

重炭酸ナトリウムの用途は広く、当社の製品グレードでは以下の使用例があります。

局方用グレード：胃腸薬、製剤原料、人工透析液など

食添用グレード：ベーキングパウダー、製菓原料など

飼料用グレード：配合飼料添加剤、養豚用飼料、養鶏用飼料など

工業用グレード：消火剤、洗剤、土壌硬化剤、金属表面処理剤など

3 . 物理化学的特性

重炭酸ナトリウムは常温で白い無臭の粉で、発火性、引火性、その他特記すべき物理化学的な危険性はありません。水溶性で 20 の水 1 L に 96 g 溶けます。水溶液は弱アルカリ性 (pH=8.3) を示します。50 以上に加熱すると二酸化炭素と水を放出しながら分解し、炭酸ナトリウム (慣用名：ソーダ灰) となります。

4．健康への影響

重炭酸ナトリウムが体内に入ると直ぐにナトリウムイオンと炭酸水素イオンに分かれます。ナトリウムイオンは人体にとって必須栄養素で、炭酸水素イオンには体内の水素イオン濃度（pH）を緩衝する重要な作用があります。飲み込んで、重炭酸ナトリウムは胃の中で中和され安全です。但し、大量に飲み込んだ場合、腹痛、吐き気、下痢などの体調不良を起こすことがあります。吸い込んで有害ではありませんが、誤って大量に吸い込んだ場合、呼吸器に軽い刺激が起こることがあります。その場合は医師の手当を受けて下さい。通常は、皮膚や眼への刺激も少なく、アレルギーを起こすこともありませんが、人により刺激を感じる場合があります。念のため、皮膚に付いた場合や眼に入った場合には水で洗い流して下さい。また、遺伝毒性、発がん性、生殖毒性など特に問題となる有害性はないことが、動物実験等によって分かっています。

5．環境への影響

重炭酸ナトリウムは揮発性がなく水に溶ける物質です。水に溶けた状態ではナトリウムイオンと炭酸水素イオンとに分かれています。どちらも自然環境に豊富に存在するものです。また、水の水素イオン濃度（pH）が下がれば、炭酸（ H_2CO_3 または CO_2 ）となり、やがて二酸化炭素として大気に移動するため、環境に対しては特に問題となる影響はありません。

6．ヒトへの曝露

労働者は製造と使用段階で重炭酸ナトリウムに曝露することが考えられます。労働者に対しては MSDS（製品安全データシート）を通して必要な情報が提供され、保護眼鏡、防塵マスク、保護手袋等着用など、適切な管理措置が実施されています。また、最終製品を経由して消費者が重炭酸ナトリウムに曝露することが考えられます。消費者に対しては、製品ごとに安全確保のための使用上の注意が提供されています。

7．環境への曝露

重炭酸ナトリウムの用途は広い為、環境への曝露は考えられますが、5．“環境への影響”で記載したように、環境に対しては特に問題となる影響はありません。

8．廃棄に対する配慮

廃棄に関しては、少量の場合、配管が詰まらないように水を流しながら下水に流して下さい。それ以外の場合、埋立て処分となります。各自治体の基準に従って下さい。

9．法規制情報 / 分類・ラベル情報

適用法令：

薬事法（医薬品、医薬品原薬、医薬部外品、化粧品原料）

食品衛生法（食品添加物）

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（飼料添加物）

GHS 分類：（GHS とは...化学品の分類および表示に関する世界調和システム）

分類基準に該当すると判定される項目はありません。

10. より詳しい情報

重炭酸ナトリウムに関するより詳しい情報については以下をご参照下さい。

〔日本語〕

MSDS（製品安全データシート）

<https://www.tokuyama.co.jp/business/msds/index.php?url=index.html>

OECD HPV 初期評価プロファイル（和訳版）

<http://www.jetoc.or.jp/safe/doc/J144-55-8.pdf>

国際化学物質安全性カード

<http://www.nihs.go.jp/ICSC/icssj-c/icss1044c.html>

〔英語〕 - データベースにより検索できます

UNEP Chemicals Screening Information Dataset (SIDS) for HPV

<http://www.chem.unep.ch/irptc/sids/oecdsids/sidspub.html>

ECHA REACH Registered Substances Chemical Substance Search

<http://echa.europa.eu/web/guest/information-on-chemicals/registered-substances>

連絡先

株式会社トクヤマ

リンク：<https://www.tokuyama.co.jp/inquiry/index.html>

発行・改訂日

初版発行日：2012 年 6 月 29 日

〔お断り〕

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み（GPS/JIPS = Global Product Strategy / Japan Initiative of Product Stewardship）の一環として、一般社団法人・日本化学工業協会の JIPS ガイダンスに従って作成されたものです。当社で扱う化学品の安全性の概要を説明することを意図したもので、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を詳しく提供することは意図して

いません。また、使用上の注意、緊急時の対応、事故・災害時の処置などに関する情報を提供するものでもありません。こうした情報は 10. “より詳しい情報” に詳述されていますので、必要に応じてご参照下さい。

安全性要約書は、発行時点で入手可能な情報に基づき、通常の使用状況で想定される範囲で記載されていますが、極端な大量摂取、大量流出を伴う事故、想定外の使用等の健康影響や環境影響などは対象としていません。また、できる限り正確な記載に努めていますが、内容を保証するものでもありません。

当社は安全性要約書に起因する如何なる損害に対しても賠償責任を負いかねます。